



2026年2月16日

各 位

会社名 株式会社グラッドキューブ
代表者名 代表取締役 CEO 金島 弘樹
(コード番号：9561 東証グロース)
問合わせ先 専務取締役 CFO 財部 友希
ir@glad-cube.com

**(訂正) 「2026年12月期 事業計画及び成長可能性に関する事項 書き起こしレポート」の一部訂正
について**

株式会社グラッドキューブ（本社：大阪府中央区 代表取締役 CEO 金島 弘樹 以下：グラッドキューブ）は、当社が2025年2月13日に公表いたしました「2026年12月期 事業計画及び成長可能性に関する事項 書き起こしレポート」の記載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。

記

1. 訂正の理由

公表いたしました「2026年12月期 事業計画及び成長可能性に関する事項 書き起こしレポート」において、以下の記載に一部誤りがあることが判明いたしました。

21ページ CEOからのメッセージ

2. 訂正の内容

別紙をご参照ください。訂正箇所には下線を引いております。

以上

別紙

【訂正前】

CEOからのメッセージ

改めて投資家の皆様、またステイホルダーの皆様、いつもグッドキューブを叱咤激励いただきましてありがとうございます。グッドキューブは来年2027年には20周年を迎えます。そして2023年に大幅な減損を行ったこと、これは屈辱でもあり、すごく苦しい時期でもありました。また2022年9月28日に上場して、多くの株主の皆様にもご迷惑をおかけしたということは、非常に心苦しいことでした。

これを必ず挽回すべく、今年は「REVENGE」という名で、社員一同、役員一同、絶対に利益を大幅に出すのだと、売上も大幅に上げるんだということで、もう1月の前からですね、様々な提携の話であったり、資本政策であったり、そのほか新しい人材の確保、優秀な人材の確保とかもどんどん進めていっております。そのほかにもアメリカの内容についてもニュースをお届けできるようになりたいと考えております。

昨年度の結果に関して満足していませんが、一旦予算に関しての赤字縮小が概ね収支均衡水準になったということは、グッドキューブの大幅な減損があった時期に比べると、すごく身軽になったかと考えており、事業自体もAIを活用するだけでなく、しっかりとしたオペレーションによって、バックオフィスチームも強くなり、数字に関する意識も社員がしっかり持っており、すごく成長をしたこの2年間だったかと私自身も感じております。

その成長したところを皆様に還元していきたいと考えておりましたが、今年まだお知らせすることがたくさんあればと考えておりますが、まずはこの成長可能性と通期決算の発表、そして3月には株主総会があります。この株主総会を超えて皆様により大きな発表、そしてアグレッシブな挑戦、また「REVENGE」で株価の回復やそれ以上の上昇に向けて、エクイティストーリーを描いてやっておりますので、必ずと言っていいのちよっと皆様に本音でどこまでぶつかれるかというところはありますが、私も大株主として絶対に戻したいという気持ちが極めて強いと考えております。

もちろんこの1年も役員一同、また社員一同励んでまいります、本当に皆様のおかげで今があるということも感じております。先日の衆議院選挙を通じて日本の新しい変化っていうのも感じ取れましたし、今後の為替や経済動向なども見ながら、我々もすごくこの大きな力の中で、一緒に日本と共に成長していき、またグローバルズムを意識しながら皆様に感動と喜びと幸せを与えていける、そういった企業になりたいと心から考えてこの会社を運営しております。

何としてでもこの2026年を起点に2028年までには皆様の期待を大きく超える企業となってみせますので、引き続き応援のほどよろしくお願ひします。本日は資料のご説明聞いてくださりありがとうございました。

【訂正後】 CEOからのメッセージ

改めて投資家の皆様、またステイクホルダーの皆様、いつもグッドキューブを叱咤激励いただきましてありがとうございます。グッドキューブは来年2027年には20周年を迎えます。そして2023年に大幅な減損を行ってきたこと、これは私の人生で初めての屈辱でもあり、すごく苦しい時期でもありました。また2022年9月28日に上場して、多くの株主の皆様にもご迷惑をおかけしたということは、私にとって本当に生きている心地がしない時間でもありました。

これを必ず挽回すべく、今年は「REVENGE」という名で、社員一同、役員一同、絶対に利益を大幅に出すんだと、売上も大幅に上げるんだということで、もう1月の前から、様々な提携の話であったり、資本政策であったり、そのほか新しい人材の確保、優秀な人材の確保とかもどんどん進めていっております。そのほかにもアメリカの内容についてもこれからまたリリースを出していきたいと思っておりますが、まず何より昨年度の結果に関しては満足はしていませんが、一旦予算に関しての赤字縮小が概ねプラスマイナスゼロになったということは、グッドキューブの大幅な減損があった時期に比べると、すごく身軽になったかと考えており、事業自体もAIを活用するだけでなく、しっかりとしたオペレーションによって、バックオフィスチームなどがすごく強くなり、数字に関する意識も社員たちを強く持っていく、すごく成長をしたこの2年間だったかと私自身も感じております。

そしてその成長したところを皆様に還元していきたいと考えておりましたが、今年まだお知らせすることがたくさんあればと考えておりますが、まずはこの成長可能性と通期決算、そして3月には株主総会が

あります。この株主総会を超えて皆様により大きな発表、そしてアグレッシブな挑戦、また「REVENGE」で株価の回復やそれ以上の上昇、こういったことを積極的にエクイティストーリーを描いてやっておりますので、必ずと言っていいのちよっと皆様に本音でどこまでぶつかれるかというところはありますが、僕も大株主でありますので、絶対に戻したいという気持ちが人一倍、人100倍強いと信じていただければと思います。

もちろんこの1年も役員一同、また社員一同励んでまいりますが、本当に皆様のおかげで今があるということも感じております。先日あった衆議院選挙なんかも日本の新しい変化も感じ取れましたし、今後の為替や経済動向なども見ながら、我々もすごくこの大きな力の中で、一緒に日本と共に成長していきたい、またグローバリズムを意識しながら皆様に感動と喜びと幸せを与えていける、そういった企業になりたいと心から考えてこの会社を運営、そして経営しております。

何としてでもこの2026年を起点に2028年までには皆様の期待を大きく超える企業となってみせますので、引き続き応援のほどよろしく申し上げます。本日は資料のご説明聞いてくださりありがとうございました。